

佳作

りんごと共に

青森県弘前市立新和中学校

3年 對馬 空

僕のすむ青森県弘前市は、りんごの生産がとても盛んです。青森県にはじめてりんごの木が植えられた明治時代から、多くの人が努力と研究を重ね、今では日本一の生産量を誇っています。僕の家周りも、りんご畑が広がっています。僕の祖母も、りんごを作っています。もちろん忙しい時は家族みんなで手伝いますが、祖母は雨が強く降っているときは合羽を着て、夏の暑い日には朝6時前からりんご畑で作業をします。りんご作りは、本当に手間がかかるのです。

今年の4月、僕たちのクラスは修学旅行に行きました。僕たちの学校では、4年ぶりの東京です。出かける前から楽しみで仕方ありませんでした。さまざまな場所を見学しましたが一番僕の心に残ったのは、豊洲市場青果棟です。青森県で作られたりんごは、ここから全国に売られるのだと思うと、行く前から親しみを感じていました。当日、建物に入ると、青森りんごと書かれた段ボール箱が積まれていて、クラスのみんなも「あっ、青森！」だとか「こっちにもある！」と、歓声を上げていました。このあと、青果棟で働く卸売市場の方からお話を聞き、僕は市場の工夫や働く人たちの思いについて、たくさん知ることができました。

市場の仕事というのは、生産者さんたちが作った作物を、管理し、価値を決め、売ることなのだそうです。僕がまず驚いたのは、商品である作物の品質管理です。豊洲市場では虫などの侵入、風雨の吹き込み、直射日光を防ぐために、自動開閉のシャッターやエアーカーテンが設置されていました。また、僕たちが通った廊下や階段もごみ一つなく、常に清潔に保たれていました。安心・安全のためにたくさんの工夫や努力をされていました。僕は、祖母が苦労して育てたりんごも、こんなふうに大切に扱ってもらっているのかなと思うと、とてもうれしくなり、帰ったら祖母に教えようと思いました。

でも、全てがうれしくなるような内容ではなく、後継者不足という深刻な問題もありました。「りんごを作る人がいなくなったら、自分たちの仕事もなくなっちゃうでしょ。」と市場の方々は言います。だからこそ、若い世代に農業は面白いし、お金ももうかると思ってもらえるように、先を見すえてさまざまな取り組みをされているのだそうです。生産者以外で、こんなにりんごのことを考えてくれている人たちがいるのだ……。弘前のりんごが多くの人に支えられて

いると知ることは、自分にとって貴重な勉強でした。僕の家も、父は会社に勤めています。父に限らず天候や災害に左右されず安定した収入を得るために、農業以外の職業に就く人は多いのです。弘前のりんご農家がこのまま減っていったらどうなるのだろう。「りんごの町」は、弘前の誇りでもあるのに。これは、支えてくれる人たちに頼るだけではなく、僕たち若い世代や弘前の人たちが、改善を考えていかなければならない問題だと思いました。

あと、自分が興味を持ったのは品種のお話です。人気があるのは「サンふじ」ですが、ここ 50 年これを超える品種が出てこないのだそうです。もし、品種改良が成功して、味がいいうえに育てやすい品種ができたなら、後継者不足も解決するかも……などと、僕は想像をふくらませながら聞いていました。

お話を聞き終わったとき、自分の視野が一気に広がったようで、僕の気持ちはとても充実していました。弘前の誇りであるりんご。でも、知らないことだらけでした。たくさんのことを学び、知らないことを知るということは、とても楽しいことでした。それをもとに考え、多くの人と協力して問題を解決して地域に貢献する。いつの日か、そんな人になれたらいいなと思いながら、豊洲市場をあとにしました。

僕は、理科の勉強が大好きです。だから、大学へ進み将来は研究者や開発者になりたいと思っています。それをかなえるためには、まずは高校入試をがんばらなければなりません。行きたい高校はありますが、不安になったり、勉強が面倒になったりするときもあります。そんなときは、「未来の自分」を想像して楽しんでいきます。生物学の分野に進めば、りんごの新しい品種を開発できるかも。土壌の研究をすれば栄養満点のりんごを作れるかも。気象の研究をして、災害や異常気象からりんごを守るのもいいな……。今は想像でしかないけれど、夢は、僕に力を与えてくれるのです。

中学校の修学旅行で、とても貴重な経験をしたよ。あれからも、素晴らしい出会いに恵まれ、たくさんのことを学んだかい？ りんごや故郷を支える人になれるよう、がんばれよ。10 年後の自分……。